

# 現地レポート／石川 昌和（生命科学研究科 遺伝学専攻）

派遣先：サウジアラビア

派遣先機関名：King Abdullah University of Science and Technology

派遣期間：2014年2月1日～2014年3月31日

2014年2月28日

## 授業・研究の進捗状況（授業の登録の有無： 無）

マラリア原虫の近縁種である、*Chromera velia* の異なった環境条件での遺伝子の発現量の変化を観察する。私の担当分は、miRNA 60 サンプルの Library 調整からシーケンス、そして、mRNA と miRNA 解析である。2月28日現在、miRNA すべてのサンプルの Library 調整を終了した。今後、mRNA と miRNA 両方のシーケンスが終了し次第、解析を行い、各環境条件での遺伝子の発現量変化を観察する。

## 生活関連状況

厳格なイスラム国家であり、制約の多い国だが、大学内は例外であり女性でも普通に生活することができる。広大な大学の敷地には、居住施設を始め、レストラン、スーパー、ジム、映画館などもあり、学外に出なくとも、不自由なく生活することができる。物価は日本とほぼ変わらず、食堂のランチが500円ほど、カフェのコーヒーが250円ほどである。大学内であれば、すべての人が英語を話すので、英語が出来れば問題はない。学外のショッピングモールなどには、大学から無料のバスが出ており、学内で手に入らないものも、そこで手に入る。公用語はアラビア語であるが、英語が通じる人も多く、レストランのメニューは大抵英語のものも存在する。

## その他報告すべき事項

観光ビザを発行しておらず、入国するには、現地のスポンサーがサウジアラビア外務省に申請する必要がある。申請も非常に時間がかかり、今回でも申請から取得まで2ヶ月かかった。研究をする上で一番困ることは、試薬を注文して届くまでが非常に時間がかかること。検疫が厳しく、数ヶ月ほどかかる。日本人にとって、馴染みのない国だが、比較的安全で、日本とは違った文化を体験することができる。ただし、世界で最も男尊女卑の厳しい国なので、単身女性の方は、よく調べて入国された方がよい。